

浦河町や新冠町にお住まいの方にも、毎回参加していただいています。

世界共通の手話
アイラブユー



手話情報教室に参加されている皆さん

月に一回、役場静内庁舎で、手話通訳者が中心となり、聴覚障がい者へ最新の行政情報などを伝えています。

【問合せ】 保健福祉センター健康推進課 ☎ 49-0287(直通)

今月のいいね

Vol.26

ナイス ヒ nice さん 見つけちゃいました!



今月のいいね



手話情報教室の中で、今年度、新たに導入した遠隔手話通訳事業(※)について説明する様子

※聴覚障がい者が役場で各種手続きをする際に、北海道ろうあ連盟(札幌市)の方がオンラインにより手話通訳をしてくれるシステム

専用のタブレット端末は、役場両庁舎、保健福祉センターに配置しています。

手話クイズ

第1問(ヒント:あいさつだよ)



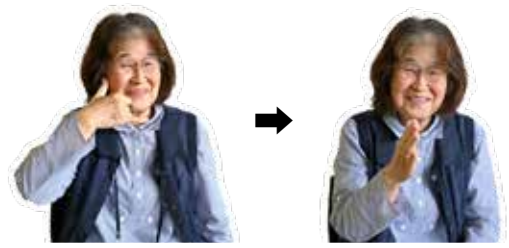
第2問(ヒント:感謝の気持ち)



右手を垂直に上げます

答えは、下段に記載しています。

第3問(ヒント:もしもし)



手話通訳者 廣田美喜子さん (静内中野町)

手話通訳活動ができているのは、多くの人の協力があるからです。手話学習や自分自身の手話通訳の振り返りは、聴覚障がい者の人たちや手話活動をしている仲間がいてできることです。また、聴覚障がい者の日々の暮らしや歴史を伝えてくれたことも私にとっては宝ものです。聞こえないことがハンディにならない未来社会を目指したいです。

聴覚障がい者のご夫婦

手話通訳の方を信頼しています。病院で症状を伝える際や銀行窓口での手続きなどで大変助かっています。困っていることは、コロナ禍で皆さんマスクをしているため、口の動きで話を理解することに苦勞する場面が続いています。顔が見える透明のマスクがあるといいですね。今、頑張っていることは、8月30日に富川高校で、9月15日に静内高校で授業の一環として、生徒さんを前に、私たち夫婦が講師となり、生い立ちも踏まえ、簡単な手話を教える講座を行う予定で、その準備をしています。



高校での手話講座に向けて、ご夫婦と手話通訳者が打ち合わせをしている様子

「手話」と「口話」
— ろう教育の歴史 —

ほんの十数年前まで、日本のろう教育は「口話」が中心で、ろう学校では「手話」を使うことが禁止されていました。手話は、見て直ぐに意思疎通ができて活発な会話が楽しめるため、寄宿舎で先輩にこっそり手話を教えてもらっていました。学校での「口話」習得は、水を口に含みながら飲み込まないようにして発音する訓練や、顔の前に1枚の紙を置いて息を声に変える訓練など、指導も厳しく、個々の努力や能力に問題があるとされることもあり、とても辛いものでした。口話法で成果を上げることもあるとは思いますが、個々の残存聴力や失聴時期などにより、その習得度合も関係するため、平成初期に多くのろう学校で実践的に手話を取り込まれていき、平成21年に文部科学省は学習指導要領を改訂。「手話」が初めて明記され、ろう学校でのコミュニケーション手段の一つとして認められた歴史があります。今ではテレビでも手話通訳をよく見かけるようになりました。日常の大切な言語です。

次回の手話情報教室は、9月21日に開催します。手話に興味のある方の参加をお待ちしています。

※「口話」とは、口の形から言葉を読み取り、また、その口の形をまねることで言葉を発する方法です。
※手話クイズの答え ①「こんにちは」、②「ありがとう」、③「電話をお願いします(私の代わりにかけてください)」